

市民の声・ちまたのニュース

第38号

2021年3月21日
日本共産党根室市委員会
根室市宝林町4-203
TEL 23-6023
FAX 24-1684

大きな損失根室新聞の「廃刊」

地元紙として、74年余にわたり地域に密着した情報発信を行ってきた根室新聞が、この3月末で休刊することになりました。事実上の「廃刊」といわれています。

2万数千人の小さなマチに夕刊の毎日版が存在してきたことは、地域にとつてとても大きな「財産」でした。地域の文化水準の高さを示す根室市民が誇るべきもの一つです。力不足ですが同紙が地域に果たしてきた意義について少々書いてみました。

地元紙の存在意義

日本の各地は、過疎化、高齢化、人口減少などと各種産業の衰退が進行しています。とりわけ、根室市は「島の返還」の展望と対口漁業の大幅な後退、海洋環境の激変による根室近海沿岸資源の急速な減少が続いています。

この様な時代にあつて、地元紙は「地域の疲弊」の現状を的確に捉え、その分析を基に「地域再生」の道筋を市民に示す大変大きな役割がある。その機能として、世論を背景にしたジャーナリズム(時々の問題の報道、解説、批評などの活動)機能
地域の伝統や文化等を

記録し伝えること、そのことを通じて地域の社会文化的な「主体性」を創り、維持することを重視する。これらが地元紙の存在意義だとされています。

根室新聞桐沢編集長へ本ニュースから同紙の報道の基本と果たしてきた役割についてお願いした「寄稿文」を紹介させていただきます。

市政と議会報道

市政と議会活動を郷土紙だからこそ可能な限り紙面を割き、今、根室市や市議会が何を考え、何をしているのか伝えてきました。

北方領土問題

北方領土問題は国の問題であると同時に、根室が本来享受すべき正常な発展を阻害され続けてきた問題であることを常に頭に入れて、報道してきました。

根室の自然 市民運動

根室の自然風土、町内会や各種サークルなどの市民活動を出来るだけ細かく取り上げるように努め、街づくりを応援してきました。

根室の歴史掘り起こし

根室の歴史を掘り起こし、記録する役割も、少しだが、果たしてきました。

紙面上、一部しか紹介できないことをお許し下さい。

このニュースの地元紙の存在意義については、駒澤大学社会学部社会学科の深澤弘樹准教授(マスコミ学)の論文の一部です。この「存在意義」と編集長からの寄稿文が正に一致する内容であり、それだけ根室新聞が根室という「ミニニティ」に果たした役割は、確かな存在で、失う事の大きさも同時に実感します。

「拙文、駄文」の類しか書けない筆者にとつても「廃刊」というニュースが流れた時に愕然となり、その喪失感で一晩、二晩眠れぬ夜を過ごしました。

深澤氏は、中央紙では拾えないもう一つの視点は、「ゲアのジャーナリズム」をあげて、絶対的な弱者に優先な配慮をする記事を発信することの大切さを説いています。郷土紙としての根室新聞もこの視点からの記事も多くあったように感じています。

同紙3月13日付け「ザンペ汁」で取り上げているが、何らかの形で「復刊」は多くの根室市民の偽りのない切なる願いではないでしょうか

幻想的な雨氷と通行止め

3日朝の根室は、前日からの雨が樹々に氷となって張り付き「夢の世界」を思わせる雨氷が朝日に照らされてキラメキ、正に幻想的な光景となりました。しかし、午後には、温根沼大橋が通行止めになり、別当賀周り迂回を余儀なくされました。



(写真樹々の枝に雨氷)

3日早朝妻の通院のため、国道44号線を釧路へ向かいました。朝日に照らされた「雨氷」は、まるでクリスマスツリーのイルミネーションがシャンデリアのように煌めいていました。

ところが、帰りのラジオから44号線通行止めのニュースが一瞬耳を疑いました。早朝のおとぎの国を走っているような気分が暗転。よくニュースに耳を傾けると温根沼大橋の「維持管理」

のため通行止めとのこと。厚床当たりで何らかの案内表示があると思いを走らせてきたが、何の案内もなし。道の駅の手前で通行止め、別当賀方面へ案内する交通整理員がシグナル棒で誘導する。市道、道道を使い落石、和田を經由してようやく我が家へ何とかがたどり着きました。

大橋の高い欄干に張りついた雨氷落しのための「維持管理作業」での通行止めだったようです。せめてその理由と道路案内表示を書きでもいので厚床から何か所かに出来なかったのかと病身の妻の身を案じつつ、少し怒りが込み上げながら帰ってきた次第です。

神志志の勝手気ままな料理レシピ

フルーツサラダ

フルーツならなんでも
オッケー(例)バナナ、キウイフルーツ、リンゴ、アボカド、イチゴなど(適量)を一口大にカット
塩コショウかゆずコンブ塩を適量まぶし、オリブオイル大さじ2程度で出来上がり(神のオリジナルです)